

アレルギーコンポーネント グリエムフォー Gly m 4 (大豆由来)



大豆のアレルギーは主に2種類あります

	通常の即時型大豆アレルギー	カバノキ科花粉関連の大豆アレルギー
感作原	大豆	ハンノキ・シラカンバなど カバノキ科
症状誘発アレルゲン	大豆および大豆製品全般	主に豆乳など
症状	皮膚症状・呼吸器症状・粘膜症状・消化器症状 など	OAS* が主であるが、アナフィラキシーなど重篤な症状を呈する例あり
好発年齢	乳児～幼児期	学童期以降から、主に成人

* OAS: 口腔アレルギー症候群

花粉 - 食物アレルギー症候群 (PFAS) について

もともと花粉に感作されていた人が、その花粉のアレルゲンと交差反応する生の果物や野菜を摂取したときに起こる食物アレルギー症状です。これは「花粉 - 食物アレルギー症候群 (PFAS)」と呼ばれています。

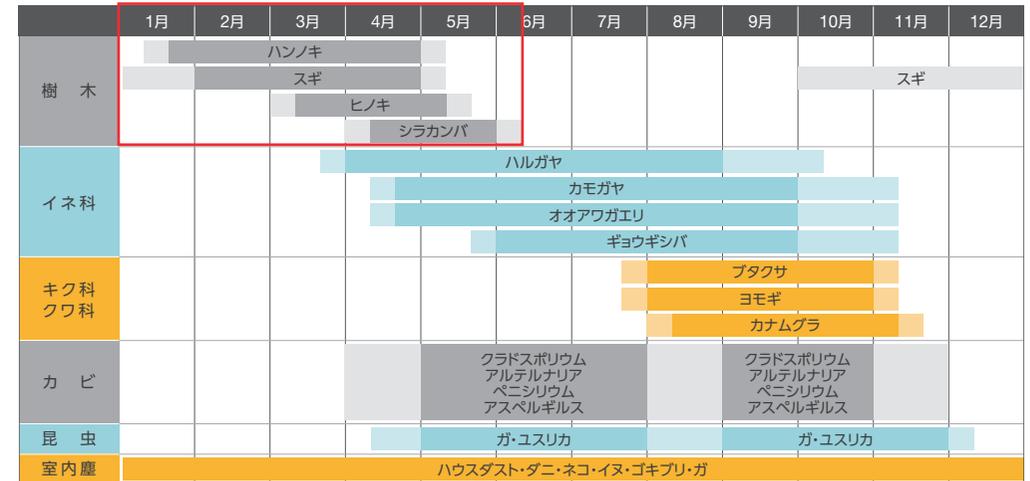
野菜や果物を摂取した後に、口の中がかゆくなったり、のどがイガイガして腫れたり、息苦しくなったりするなどの症状が現れることが多いです。

飛散時期	花粉	花粉と関連性のある主な食物 ¹⁾
春 1~6月	ハンノキ シラカンバ	バラ科(リンゴ、モモ、洋ナシ、アーモンドなど) 大豆(豆乳)、ピーナッツ、キウイ、ヘーゼルナッツなど
夏 4~10月	オオアワガエリ カモガヤ	メロン、スイカ、トマト、キウイ、オレンジ、 ピーナッツなど
秋 7~11月	ヨモギ	セロリ、ニンジン、マンゴーなど
	ブタクサ	メロン、スイカ、バナナなど

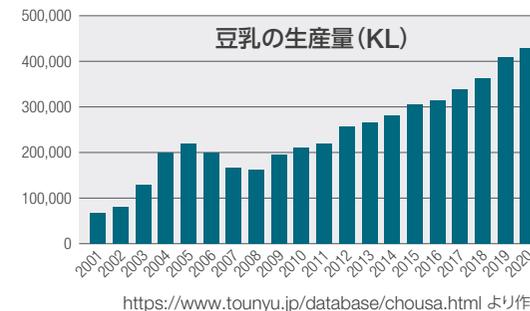
大豆製品(主に豆乳)によるアレルギー症状は、感作原であるカバノキ科花粉の飛散数が多い時期に出やすいと言えます。**1月~6月までの期間にPFASを発症した割合は全体の70%**を占めます。

Minami T. et al. JACI PRACT 2015; 3: 441-2.

アレルギーカレンダー



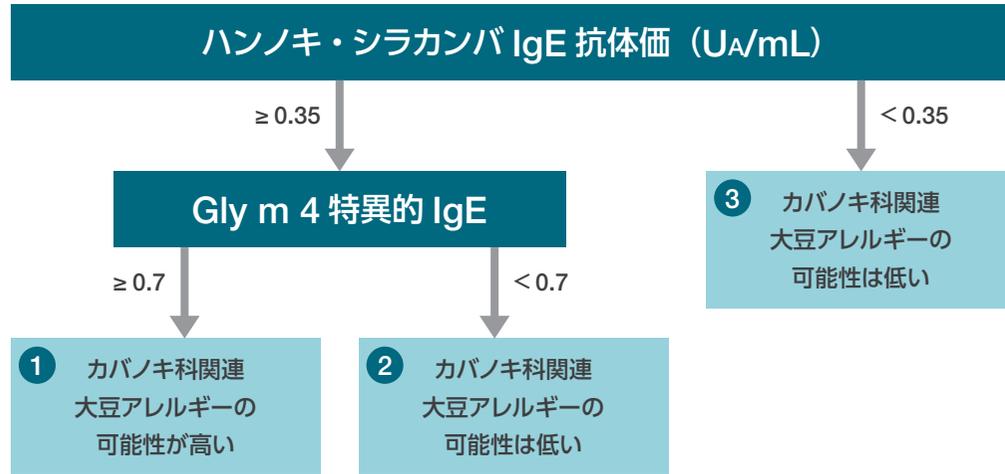
植生および時期は地域により若干異なります



健康志向の高まりから、豆乳の生産量も年々増加してきて、摂取する機会が高まっています。一方、豆乳摂取によるOASの報告が増えており、独立行政法人 国民生活センターより注意喚起がなされています²⁾。

春季の花粉症患者における大豆アレルギー合併リスク判定のためのフローチャート

カバノキ科花粉症患者は、大豆製品を摂取した際に約 10%³⁾の頻度でアレルギー症状を起こします。Gly m 4 特異的 IgE 抗体価は合併する大豆アレルギーのリスク判定に有用です。



測定推奨項目

Gly m 4 + ハンノキ/シラカンバ

フローチャートに基づいた患者指導法

原則として、問診上(もしくは経口負荷試験で)、大豆製品摂取で明らかにアレルギー症状を認める場合は、その製品は摂取不可。大豆製品の中でも特に豆乳摂取で症状を起こすことが多いので、問診上、最近の豆乳の摂取歴を認めない場合は、左のフローチャーターに基づいて以下のように対応。

- ① 豆乳の摂取は禁止。枝豆、モヤシ、豆腐は注意する。
- ② 豆乳は注意しながら少量ずつ摂取可。その他の大豆製品は制限なく摂取。
- ③ すべての大豆製品に関して制限なく摂取。

カバノキ科花粉は大豆製品(主に豆乳)の他に以下の食物との関連性が報告されており、特異的 IgE 検査陽性の際には以下の食物による症状発現の確認も有用です。
バラ科(リンゴ・モモ・ナシ・洋ナシ・ビワ・スモモ・サクランボ・イチゴなど)・キウイ・ヘーゼルナッツ(ハシバミ) *赤字の項目はイムノキャップで測定可能です

参考文献

- 1) 食物アレルギー診療ガイドライン 2021
- 2) https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20131205_1.pdf
- 3) 日耳鼻 118: 1124-1132.2015

監修 福富 友馬 先生 独立行政法人 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター アレルゲン研究室 室長

Learn more at thermofisher.com/hcp-jp

サーモフィッシャーダイアグノスティクス株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館

✉ info-jp.idd@thermofisher.com

thermo scientific